

『社員面接の重要性と面接実践からの一考察』

子ども家庭教育フォーラム
湯浅 和彦

IT企業における、「職場のメンタルヘルス」の実践から社員への面接の重要性について考察を発表した。社員に直接会い、会話をすることで、公私共々の問題点や苦悩が顕在化する。社員面接での質問事項は大きく分類すると「職場及び、業務の問題点」、「健康状態や生活状況」、「趣味や雑談」が重要である。

うつ病を発症した社員の事例で考察すると、会話の内容は、仕事に関する事、私的な事とが絡み合っている。また、面談の回数を重ねて行くと、社員も「愚痴」話すようになる。「愚痴」を単なる無駄話と見過してしまう場合がある。しかし、「愚痴」を深く聴くと社員は無意識に仕事や私的な問題点を話している場合が多い。

職場の中での「雑談」や「愚痴」は不可欠であり、日常のちょっとした会話や社員面談が「職場のメンタルヘルス」に大きな役割を果たすと考察した。

今後の課題も多々あり、日常実践を継続することで、考察をより深める必要がある。